

# 社説

昭和30年に創刊した水道産業新聞は昨年11月、創刊50周年を迎えることができた。これはひとえに本紙を愛情をもって見守り、育んでくださった読者並びにスポンサーの皆さまのご支援の賜物と心より感謝しつつ、51年目の創刊記念日となる11月3日を前に、改めて専門紙の役割について考えてみた。

本紙は、わが国唯一の「水の総合専門紙」として半世紀にわたり水道・下水道に軸足を置き、建設、管理、経営、技術の面から行政・自治体・産業界・学界等の動向を伝えてきた。これらの分野での充実はもちろん、今後は、「水と環境の未来へ」のスローガンのもと、地球環境、水環境の未来にも目を向けていきたい。そして、より多くの情報を可能な限り早く正確に伝え、現場の声にも耳を傾けながら、読者の皆様役に立つ「信頼される専門紙」としての

役割を果たしていき  
たいと考えている。

上下水道事業の健全な発展のためには

安定した事業発注による業界の充実が不可欠だ。特に水道界の活性化はオピニオンリーダーとしての専門紙の責務と理解している。上下水道事業の成熟化による事業量の減少、国の公共投資抑制、需要の低迷による財政悪化などにより上下水道への投資が低調に推移している現状を勘

## さらなる活性化へ向け

と、関連業界の健全な成長、発展のためにも水道、下水道の両ビジョンの実現は、水道界が一丸となって取り組まなければならない最重要施策といえる。地方自治体や産業界の生の声を伝えることによって両ビジョンの実現を期し、水道界の活性化につなげたい。

水道については、ガイドラインや更新マニュアル、地震対策、より安全でおいしい水、国際貢献などをキーワードに、豊富な情報を提供する

「ヨシ2100」を視点に、21世紀型下水道の実現へ向けての取り組みを、人と技術の両面から積極的に取り上げ、ビジョン実現への先導役を果たすとともに、品質・安全を踏まえた管理運営に関する情報提供にも心がけていきたい。

また、21世紀に入ってもなお、水道の恩恵に浴していない人々が全国に370万人もいることや、2500万人もの人々が下水道を利用できない状況にあることにも目を向けた

案すれば、この閉塞感の打破こそ専門紙が、当面取り組まなければならない喫緊の課題である。幸い我々には、水道、下水道の未来のあるべき姿を示した「水道ビジョン」と「下水道ビジョン2100」がある。持続可能な上下水道の実現

ことにより力強い旗振り役を果たしていきたい。特に、水道施設の大部分を占める管路の老朽化が加速的に進む一方、的確な更新がなされていない現状に警鐘をならしながら、老朽管路の更新、耐震化への積極的な取り組みを促すとともに、管理運営の民間委託の促進と、適正な事業発注を促すことは必須だ。

冒頭にも記したように、本紙の創刊は11月3日の文化の日である。上下水道事業の発展を期すとともに新たな水文化の創造に貢献する」という本紙創刊の原点に立ち返り、紙面の一層の充実・向上に努めていきたい。何よりの励みは、読者の皆さまからの叱咤激励です。読みやすく、分かりやすく、役に立つ」を念頭に、引き続き紙面の刷新に努めてまいります。関係者の皆さまの一層のご支援とご愛読を心よりお願い申し上げます。